

経営比較分析表（平成30年度決算）

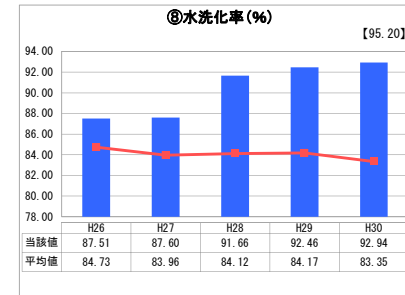
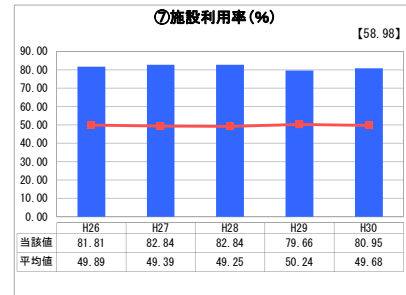
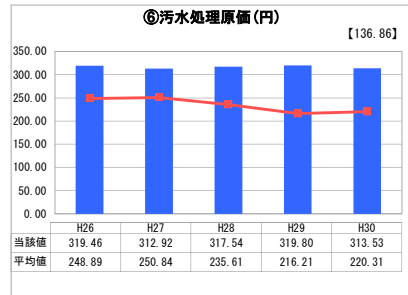
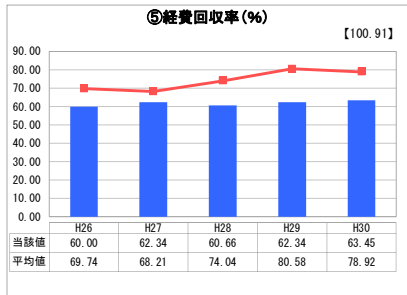
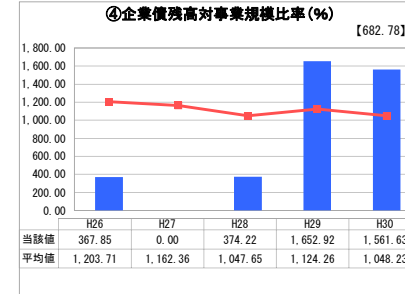
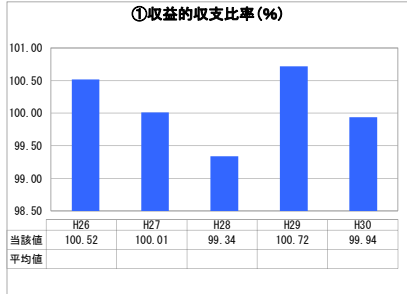
北海道 大樹町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	公共下水道	Cd2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	67.44	95.24	3,653

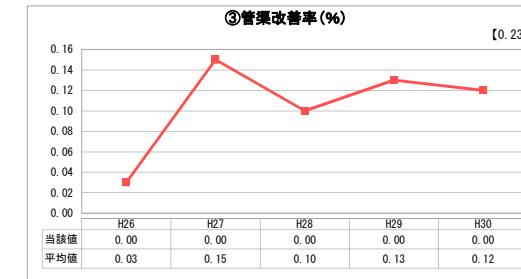
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
5,627	815.68	6.90
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
3,738	2.21	1,691.40

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 平成30年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①単年度の収支では、収益の収支比率が100%未満の年度があることから、経営改善に向けた取組が必要である。
 ④債務残高では、企業債残高対事業規模比率を経年比較や類似団体と比較して数値が高く、経営改善に向けた取組が必要である。
 ⑤料金水準の適切性では、料金回収率が100%を下回っており、汚水処理に係る費用が一般会計からの繰入金で賄われている状況である。類似団体と比較しても低い数値であり、経営改善に向けた取組が必要である。
 ⑥費用の効率性では、汚水処理原価が類似団体と比較して高く、経営改善に向けた取組が必要である。
 ⑦施設の効率性では、施設利用率が類似団体と比較して高い数値であり、現時点では適正規模であると考えられる。
 ⑧使用料対象の捕捉では、水洗化率が類似団体と比較して高い数値であるが、水質保全の観点や使用料収入の確保を図るため引き続き便所水洗化の普及に向けた取組を推進することが必要である。

2. 老朽化の状況について

計画的に施設や管渠の更新を行う必要がある。

全体総括

料金水準の適切性及び費用の効率性に課題があることから、引き続き、経費の節減策を調査研究・検討するなど、経営改善を図る取組を進める。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。